

令和7年度 6年生「全国学力・学習状況調査の結果」より

4月17日に、6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果が返却されました。本調査は、国語・算数・理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力の関係など、本校の子どもたちの状況を報告させていただきます。

総合結果(国語・算数・理科)

国語・算数・理科ともに、全国と京都府の平均正答率を上回っていました(国語:全国+6.2ポイント 算数:全国+3ポイント 理科:全国+7.9ポイント)。

全国と比較すると無回答率は低く、一生懸命問題に向き合い、最後まであきらめないで取り組もうとする姿勢が見られます。特に【国語3三(2)】の無回答率は全国より10ポイントも低かったです。

しかし中には全国の無回答率に近くなっている設問もありました。【国語3三(1)、算数3(2)】



問題・解答など

[令和7年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について：国立教育政策研究所 National Institute for Educational Policy Research \(すぐーるにもリンクを添付しています\)](#)

国語科より

★成果

- ・正答率が全国を上回っていた。
- ・特に、「読むこと」の正答率が高い。
- 文章の読み取りはよくできていた。
- 多くの問題に解答を書き、無回答率が低かった。

★課題

- ・同音異義語「あつい」の漢字の正答率が低い。
- 最後の2問は、無回答があった。時間内に解く。

★おすすめ自主学習

- ・漢字をただ書くだけでなく、言葉の意味を理解し、活用できるように覚える。(漢字と文章を書く等)
- ・読書に親しみ、文章を読むことに慣れる。
- ・お話を叙述をもとにして、人物像を想像してまとめる。

算数科より

★成果

- ・図や絵、グラフで示された内容をもとに考えることはできる。
- ・選択解答問題や短文解答問題での正答率は高い。

★課題

- ・記述式解答問題での正答率は低い。
- ・長文から必要な情報を読み取り、活用しながら答える問題は、正答率が低く、また無回答率が高い。
- ・角の大きさについての問題は正答率が低い。

★おすすめ自主学習

- ・読書に親しみ、文章を読むことに慣れる。
- ・算数の学習内容から、自分の課題を見つけ、継続的に取り組む。
- ・買い物等の生活場面で、学びを活かしていく。(広告を見比べて安い商品を見つけてみる、○%引きや○割引について具体的な金額を計算する等)

理科より

★成果

- ・既習の学習が定着している。
- ・「生命」「地球」領域の正答率が高い。
- ・無回答が少ない。

★課題

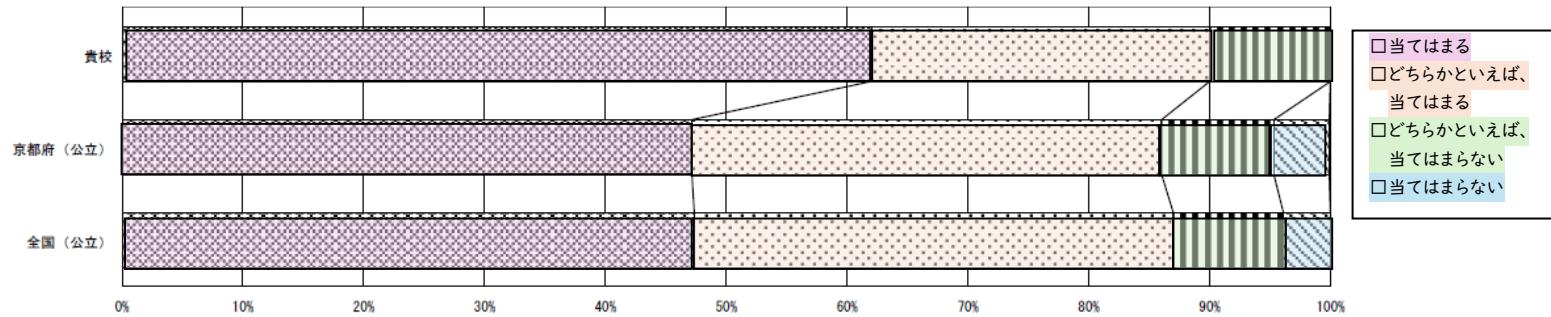
- ・記述式の問題は無回答や誤答(問題文から予測される内容の解答ではない)の児童が多い傾向がある。
- ・問題の題意を読み取れていない児童がいる。

★おすすめ自主学習

- ・実験を伴う学習について、ふりかえりや自主学習を行う。
- ・学習したことを自分の言葉でまとめる
- ・インプットしたことをアウトプットする

児童質問紙調査から

質問「自分にはよいところがあると思いますか」



全国平均と比べて「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」など、「自己有用感」に関する項目での肯定的な回答の割合が高かったです。学力（正答率）との相関関係で見ますと、学習に意欲的に取り組めていると感じている児童ほど、正答率や自己有用感が高くなっています。しかし、見逃してはならないのは、否定的な回答をした児童もいるということです。子ども一人ひとりのよさを認め、励ますような声かけを意識していきたいと思います。

全体を通した本校の成果と課題

本校では「夢に向かって自ら未来を切り拓く子どもの育成」という学校目標のもと、保護者や地域の皆様のご協力を得て、教職員一丸となって取組を進めています。子どもたちを取り巻く社会は、情報化やグローバル化が進み、予測困難な変化が常に起こります。子どもたちが将来、社会で活躍するためには、単なる知識だけでなく、柔軟に対応できる力が必要です。その力をつけるために「主体的、対話的で深い学び」を目指した授業作りをしています。

成果: 子どもたちの意欲の高さ（無回答率の低さ）にはいくつかの要因が考えられます。

★**ICT 活用の推進**: 児童質問紙調査の中で、全国より肯定的な答えの割合が高かったのは「ICT の活用頻度」「文章を作成する」「プレゼンテーションを作成する」「友達と協力しながら学習をすすめる」などについてでした。ICT を活用することで、自分の考えを積極的に表現する姿勢が育まれたと考えられます。

★**授業作り**: 「主体的、対話的で深い学び」「探究すること」を大切にしてきたことで、自分で考え方を交換し、深く理解するプロセスが学びの楽しさを実感させているのではないでしょうか。自分で課題を見つけ、解決する経験が、学びへの積極的な姿勢をはぐくんでいると言えます。

★**自己有用感の向上**: 上記の「児童質問紙調査から」にもありますように、自己肯定感が高い子どもたちは、学習に対しても前向きに取り組む傾向があります。

課題: 読み取る力が弱い 原因と、改善方法について考えます。

★**語彙力不足**

★**集中力の欠如**: スマートフォンの画面を見すぎると「脳疲労」になり学習に集中できなくなるとも言われています。

★**読書の経験不足**: 第1回学校評価アンケートからもその様子が感じられました。

読み取る力につけるために…読書や、辞書を使った自主学習をするのも良いでしょう。学校での朝読書だけでは読書量が不足しているかもしれません。ご家庭でも読書の時間を作ってみてください。また、さまざまな分野の知識を広げることも大切です。ニュースを視聴したり新聞の社説を読んだりするのも良いでしょう。授業では、引き続き「主体的、対話的で深い学び」を目指します。対話を通して理解が深まりますので、ご家庭でもニュースを見てその内容について家族で話し合うことも有効です。意見交換を通じて要点を整理する力がつきます。これらの方法を取り入れることで、読み取る力が向上すると思います。



保護者のみなさまへ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと、学びの環境作りにご協力をお願いいたします。